

○エビランダの新変種 (伊藤 洋) Hiroshi Ito: A new variety of *Gymnocarpium oyamense* (Aspidiaceae)

長野県南佐久郡白田町で草間博氏が発見したシダの一種が、エビランダの新変種であることがわかったので報告する。最も重要な特徴は葉面の切れ込み方で、エビランダが羽状深〜中裂 (図 1a) であるのに対し、このシダは深く切れて複葉〜全裂である (図 b, c)。すなわち下部の 3 または 2 対の裂片は独立した羽片になり、最下羽片は 3-5 mm の、下から 2 番目の羽片は約 1 mm の柄を持ち、3 番目はほとんど無柄となる。さらに上の数対は無柄で、基部が中肋に流れる。羽片の縁はエビランダよりも深く切れ込み、羽状に深〜中裂する。以上の特徴のほかは、葉面の全形、葉柄と葉面との角度、葉質、葉脈、孢子囊群の着き方と形、孢子的表面の模様、根茎、鱗片などの諸形質はエビランダと変っていない。以上の所見からこのシダはエビランダの一変種であると考え。まだ世界のどこからも報告されていないので次のように命名する。和名は新しくキレハエビランダとする。

Gymnocarpium oyamense (Baker)
Ching in Contr. Biol. Lab. Sci. Soc. China
9: 40. 1933.

var. *kusamae* H. Ito, var. nov.

Lamina pinnata, pinnis inferioribus petiolatis margine pinnatifidis vel pinnatilobatis, pinnis medianis sessilibus, a var. *oyamensi* differt. Sporae non abortivae, superficiebus tuberculatis.

Hab.: Usuda, Nagano Pref. Japan (leg. H. Kusama, Aug. 10, 1987. Holotypus in TI).

なお、葉の切れ込みの感じはイワウサギシダ *G. robertianum* のごく貧弱なものに多少似ているので、エビラとイワウサギの雑種も一応疑ってみた。しかし孢子・孢子囊群・葉面の全形・根茎などの諸点からも、産地の様子からも無理だと考えられる。このシダはエビランダの大群落のすぐ隣りに群落を作っているが、イワウサギシダは近所になく、最寄りの産地は 10 数 km 以上離れており、標高差も 1,000 m 近くある。

(東京都文京区 [redacted])

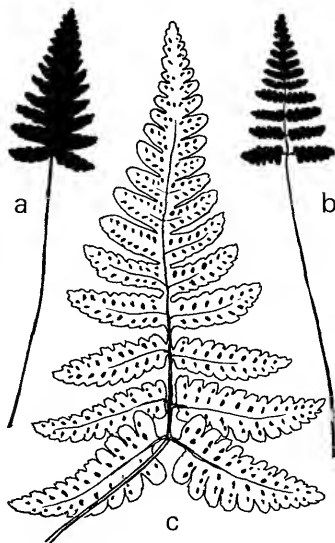


図 1. a. エビランダ var. *oyamense* ($\times 1/6$). b. キレハエビランダ var. *kusamae* ($\times 1/6$). c. 同 idem ($\times 1/2$).